

UBIC、人工知能の成長を可視化する技術について 日本で特許を取得

人工知能の学習進度を視覚的に把握し、高品質なコンサルティングサービスを実現

米ナスダックと東証マザーズに上場し、人工知能を駆使したビッグデータ解析事業を手がける UBIC（本社：東京都港区、代表取締役社長・守本正宏）は、人工知能の成長を可視化する技術に関する特許査定謄本を日本特許庁より受領いたしました。このたび、特許登録のための手続きが完了いたしましたので、お知らせいたします。

この技術は、2015年9月25日付けで当社が発表したリリース（タイトル：人工知能の成長を可視化するコンサルティングサービスを提供開始）に記載のコンサルティングサービスで用いられる技術です。

記

出願番号：特願 2015-184442 ※登録番号未付与

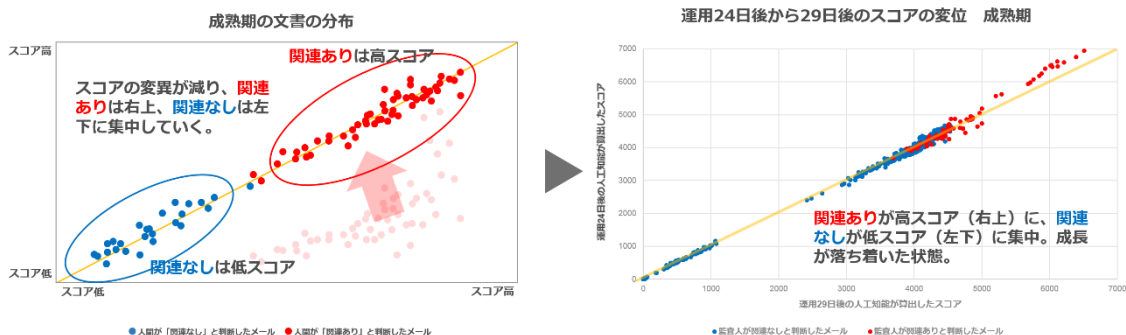
特許出願日：平成 27 年（2015 年）9 月 17 日

当社が提供するEメール自動監査システム「Lit i View EMAIL AUDITOR（以下、EMAIL AUDITOR）」では、当社独自の人工知能「KIBIT（キビット）」が、不正を監査する監査人（社内外の監査スタッフや弁護士など）からその機微を学習し、情報漏洩やカルテルなど不正行為への関与の疑いがあるコミュニケーションを、膨大な電子メールの中から監査人に代わって見つけ出します。

EMAIL AUDITOR を導入されたお客様から「人工知能によるメール監査がどの程度機能しているか？」「運用開始からどれぐらいの期間で実用的な監査ツールとして稼働できるか？」などのお問い合わせが寄せられていました。当社は、これに応えるために、KIBIT の成長を可視化する技術を独自開発し、今回この技術について日本で特許を受けました。

この可視化技術では、KIBIT が電子メールに付与したスコアの分布を時系列でマッピングし、その分布パターンから、1.成長初期 2.成長期 3.成熟期 のどの段階にあ

るかを判断することができます。最終的に成熟期に到達すると、安定したメール監査機能として稼働が確認できたこととなります。これにより、KIBIT の学習進度を視覚的に把握し、高品質なコンサルティングサービスを実現することができます（詳細は、2015年9月25日付け当社リリースを参照、下図はイメージ図の抜粋）。



今回、当社が開発し、EMAIL AUDITORのコンサルティングサービスに活用するこの可視化技術は、今後、企業が人工知能を業務に導入する上で必ず発生してくるであろう、導入の費用対効果や、導入効果の明示といった課題の解決に、先行して取り組んだ成果となります。

当社は、人工知能応用技術の研究開発・知的財産獲得をさらに推進することにより、医療・ヘルスケア、知的財産評価支援などをはじめとした、多様なデータ解析ソリューションへの展開を目指しており、その実現によって、よりよい未来の創造に邁進してまいります。なお、本件における通期業績に与える影響は軽微です。

※特許査定は、特許庁審査官による審査の結果、発明に対して特許権付与が承認されることをいいます。特許査定後、出願人が登録料を納付することにより、特許発明が登録原簿に登録され、特許権が発生するとともに、登録番号が付与されます。

※Lit i View は、当社の登録商標です。

【UBIC について】 URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社 UBIC は、独自開発の人工知能エンジン「KIBIT」により、ビッグデータなどの情報解析を支援するデータ解析企業です。国際訴訟などに必要な電子データの証拠保全と調査・分析を行う e ディスカバリ（電子証拠開示）や、コンピュータフォレンジック調査を支援する企業として 2003 年に創業。自社開発のデータ解析プラットフォーム「Lit i View®（リット・アイ・ビュー）」、アジア言語に対応した「Predictive Coding®（プレディクティブ・コーディング）」技術などを駆使し、企業に訴訟対策支援を提供しています。訴訟対策支援で培った UBIC



独自の人工知能は、専門家の経験や勘などの「暗黙知」を学び、人の思考の解析から、未来の行動の予測を実現、最近では医療やビジネスインテリジェンス、マーケティングなどの領域に人工知能を活用し、事業の拡大を進めています。2003年8月8日設立。2007年6月26日東証マザーズ上場。2013年5月16日NASDAQ上場。資本金1,688,433千円（2015年3月31日現在）。

〈本件に関するお問合せ先〉
株式会社UBIC 広報 池内
TEL: 03-5463-6380 FAX: 03-5463-6345